



草津

草津ブランド推進協議会

「草津農業」の付加価値を高めるブランド誕生。 地場産業を活性化、イメージアップに貢献へ。



草津の市花「あおばな」の加工商品

農水産物の生産者、流通関係者はもちろん、観光物産協会、高校、大学など、幅広い分野の会員が集まり、全国に誇れるブランドの育成に取り組んでいます。草津市職員の小寺と私は、協議会の実務サポートや調整役を受け持っています。

第一弾に、草津メロンなど

6品目と22加工品を認証

草津ブランドには、どんな産品があるのですか？

小寺 第一弾として、全国トップレベルの糖度が自慢の「草津メロン」、わさび菜の一種「愛彩菜」、食味値85点以上かつ外観1等級という厳しい基準をクリアしたコシヒカリ「匠の夢」、最高級肥料の魚粉で栽培した「草津産アスパラガス」、友



左) 草津ブランド推進協議会が認証する「草津ブランド食材」 右上) 草津ブランドなどの農水産物を販売するイベント「草津野菜マルシェ」 下中央) 全国トップレベルの糖度が自慢の「草津メロン」 右下) 厳しい基準をクリアしたコシヒカリ「匠の夢」

禪染の下絵染料として栽培され、最近は血糖値抑制効果で注目を集める草津の市花「草津あおばな」、琵琶湖の固有魚を休耕田で養殖している「草津ホンモロコ」の6品目を、今年1月に認証しました。また、「あおばな焼酎」「あおばなソフトクリーム」など草津あおばな関連17品目、草津ホンモロコを使った釜飯やオイル漬けなど5品目、計22品目の加工品も同時に認証しました。

市場性など、5項目で審査 ブランド認定は生産者の誇り

認証品はどのように選定されるのですか？

湯浅 申請のあった農水産物を協議会の委員が審査します。コンセプト・独自性・信頼性・市場性・将来性の五つの項目についてランク付けし、総合評価が一定水準に達した産品だけに認証を与えます。

歴史の浅い産品でも問題はありませんが、コンセプトや将来性だけでなく、採算性を確保し、継続的な安定供給まできつちりと考えているものでなければなりません。生産者目線ではなく、消費者が何を望んでいるかを意識した、消費者目線で作られた産品でなければ認証されることはないと思います。

草津ブランドが誕生して、反応はい

かがですか？

小寺 認証品決定の発表以降、TVなどのメディアで取り上げられ、「草津でアスパラガスを作っていることを初めて知った」という市民も少なくなく、県外の小売店、飲食店からの問い合わせも増えました。認証品の生産者からは、注目されたことを喜ぶ一方、いかげんなものは出せないと引き締める声もありました。生産者の自覚とプライドを高める効果があったと思います。

認知度を高めるために、どのような取り組みをされていますか？

小寺 昨年末にインターネットを通じて一般公募で、ブランドロゴマークを決定しました。認証品にはこのマークのシールを貼り付け、パッケージにも印刷して、草津ブランド品であることをアピールします。

3月19、20日には、認証品を含む草津の旬な農水産物を知ってもらうことを目的にした販売イベント「草津野菜マルシェ in アル・プラザ草津」を開催し、大盛況でした。

末永く愛されるブランドに 急がず、じっくり育てる

今後、草津ブランドをどのように発展させたいですか？ 抱負を聞かせてください。

魅力ある草津の特産品を 全国に誇れるブランドに

草津ブランド推進協議会は、どのような目的で設立されたのですか？

湯浅 肥沃な土地に恵まれた草津市は、古くから農業の盛んな地域でした。京漬物に欠かせない壬生菜、大根などの多くは、実は草津で作られていました。近年は琵琶湖に近い山田、北山田地区を中心に、水菜、ほうれん草、小松菜をはじめ、多様な品種を栽培する施設園芸が盛んで、その出荷量は県内1位を誇っています。旧草津川下流に広がる北山田地区一帯は関西最大級のビニールハウス群が壮観で「白波よせる近代農場 北山田そ菜園風景」として草津八大名所の一つになっています。

草津は県内で最も人口増加率の高い都市ですが、急増した新住民の中には、地元の農水産業が伝統も活気もあり、魅力ある産物が多いことをご存じない方も多いようです。そこで、市民の方にもっと地元を知っていただくこと、さらに、草津の特色ある農水産物をブランド化することで付加価値を高め、全国に浸透させ、地場産業の活性化、草津のイメージ向上につなげていくことを目指し、2014年12月、草津ブランド推進協議会は設立されました。

小寺 認証品は今後も増やしていきたいと考えています。草津市には草津らしい産品はまだたくさんあります。そのような既存品の掘り起こしと同時に、新しい次の商品開発にも取り組んでいきたい。そのための支援も行っていきます。ただし、安易に認証品を増やすことはしません。地域ブランドはじわじわと、末永く消費者に愛される産品に育てていくべきだと思っています。

湯浅 市内の量販店や生鮮食品店、道の駅などの小売店だけでなく、飲食店などでも扱いが増え、地産地消が広がっていくのを期待したい。草津ブランドが刺激剤となって、生産者の皆さんがやる気と生きがいを感じて働くことができ、さらに後継者育成にもつながることを願っています。

草津ブランド推進協議会 (草津市役所4階 農林水産課内) 草津市草津3-13-30



事務局主査
湯浅圭太氏
(ゆあさ-けいた)



事務局グループ長
小寺 成知氏
(こてら-なりとも)